

Message to you vol.57

"Message to you" は、雑誌「法政」読者のためのコミュニケーションの場です。

Where there's a will, there's a way

スポーツ健康学部スポーツ健康学科 3年 高橋 侑子 さん



私のトライアスロンとの出会いは、趣味から始めた父の応援がきっかけであるが、私自身も小学生の頃から楽しく参加するようになった。中学3年の時に全国大会で優勝すると、高校1年からジュニア(U19)日本代表として、アジア選手権や世界選手権に派遣されるようになり、世界の舞台に立つ経験をさせてもらううちに、この道を極め、オリンピックの舞台で戦いたいという自覚が芽生えてきた。

高校卒業後、オーストラリアに単身留学を行い、視野を広げる貴重な経験を積むと、練習だけでなく、スポーツ科学や語学を学ぶ必要性を感じた。その後、法政大学スポーツ健康学部・トップアスリート入試でご縁をいただけたことが、大きな飛躍に繋がった。

現在、体育会水泳部の朝練で泳ぎ、授業の空き時間にクロスカントリーのコースを走るなど、大学施設を利用し、週末に郊外で自転車に乗るといった練習を自分で組立ててい

る。あえてチームには所属せず、家族に手助けしてもらいながら自力でマネジメントしている。スポーツ科学、栄養学、語学などを学び、各種目のスペシャリストや他競技の選手とも交流し、コミュニケーション能力を磨くなど、自ら自分をマネジメントすることが、小さな枠にはまらず、グローバルに成長できる方法だと選択した結果である。

これまで、多くの試行錯誤を積み重ねてきたが、失敗や反省を繰り返す度に、それを糧に次に繋ぐための方策を考え、「失敗は成功のもと」と奮起してきた。複合競技であるトライアスロンは、さまざまな自然の環境下で行われ、体力や技術だけではなく、判断力や適応力も問われる経験値も重要な奥の深い競技である。大学で学んだことを生かして自己に還元し、更なる飛躍に繋げたい。歴代のオリンピックを見るとき、世界的にも20代後半が適齢期と言われる、現在22歳である私にとって、

2016年・2020年のオリンピックは絶好のチャンスである。

今後、ナショナルチーム唯一の現役大学生として、ここで学べた幸運を武器に、2020年東京オリンピックの舞台で頂点に立つことを目標に掲げ、勝負を挑んでいきたい。



ITU世界トライアスロンシリーズ ストックホルム (8月24～25日)での筆者

このコーナーは、大学から皆さんに送る「メッセージ」の他、皆さんから家族や友達、お世話になった人へ送る「メッセージ」も募集しています。文章の場合は800字以内、そのほか写真やイラストを使ったものも大歓迎です。採用の場合、応募者に直接ご連絡します。

【応募先】 pr@adm.hosei.ac.jp (雑誌「法政」編集部) ※メールには氏名(ふりがな)、学部・学科・学年を明記してください。